賞	グランプリ	一般の部 特選	一般の部 特選
氏名	佐藤　伸一	西嶋　信夫	成田　徹
タイトル	アリと共に生きる	フチグロトゲエダシャク雄飛来	卍どもえ飛翔
作品			
作品説明	葉に止まっているムモンアカシジミを撮影していると 葉陰から出てきたアリがムモンアカシジミを襲うこともなく、 脚を軽く噛んだりしていた。 ムモンアカシジミも嫌がることもなく、そのまま止まっていた。	フユシャク人気種（埼玉県レッドデータブック 2018準絶滅危惧1型）で尾端フェロモン腺が 伸びた飼育処女雌をめがけて野生雄が 上空から飛来するシーンを捉えた。	メスアカミドリシジミのオス同士の 卍どもえ飛翔の撮影に成功。小雨の中で ものすごいスピードで飛び回っていました。 左のオスが右のオスを睨んでいるように 見えます。
表現したかった チョウやガの 不思議さ	幼虫や蛹の時と同様に成虫になっても アリとの共生関係が保たれている不思議な生態	子孫を残すための、すさまじいまでの 野生の本能、生命力に驚かされた。	オス同士がくるくる回って激しく対抗して 飛ぶ力を競っているように見えてとても 素晴らしい光景だと思いました。

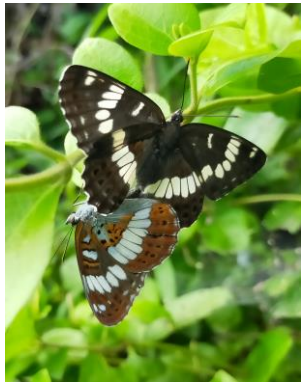
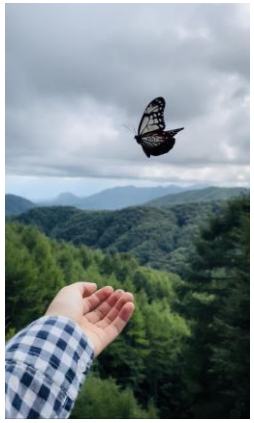
賞	一般の部 準特選	一般の部 準特選
氏名	藤本　徹哉	後藤　仁
タイトル	緋縅の春	おしっこ
作品		
作品説明	春の晴れた日、蜜源も水もない山頂で 一日中テリトリーを守るヒオドシチョウ♂たちの姿を4枚組にとらえました。	満開となったハナトラノオの 花で吸蜜中のホシホウジャク を見つけた。撮影中は 気が付かなかったが、 よく確認すると 吸蜜しながら 放尿していた。
表現したかった チョウやガの 不思議さ	羽化後9か月間、夏も秋ももちろん冬も埋伏し、 翌春の2か月間に命のすべてをぶつけるヒオドシチョウの総決算。	ホシホウジャクが吸蜜中に 放尿する。これも一種の ポンピングなのだろうか。

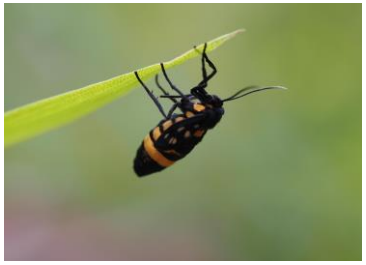
	一般の部	一般の部	一般の部	一般の部	一般の部
賞	準特選	準特選	入選	入選	入選
氏名	松田　陽二	山本　卓司	熊田　聖三	玉嶋　勝範	青木　稔
タイトル	晩夏の営み	コロナ禍の「密」	肖像写真 蝶と蛾	アリの巣から脱出した クロシジミの運命	スケカバマダラ
作品					
作品説明	アカガシへの産卵後、薄暗い沢に降りるキリシマミドリシジミを追った。吸水する母蝶の前に、突然、ツチガエルが迫った、その瞬間を偶然撮影した。母蝶は飛び立ち、別の場所で何事もなかったかのように吸水を続けた。	新型コロナウイルスが世界を震撼させた2020年。冬の散歩道でムラサキツバメの大集団に出会いました。最大で 74頭になった集団は、気温の高い日には個々に日向ぼっこにでかけますが、夕方には塒に戻ってきました。	蝶（ルリタテハ）と蛾（シンジュサン）の顔を真正面から撮 影した組写真です。複眼や触角、口吻などの複雑な造形が はっきりと見えるよう100枚以上の写真から深度合成しまし た。	アスファルトと側溝のわずかな隙間にあるアリの巣から出てきたクロシジミが、翅を伸ばす場所を求めてイネ科植物にようやくたどり着いた。しかし、その背後には巣の住人であるアリの姿が。クロシジミの運命は如何に？アリの巣から脱出したクロシジミは、後を追いかけてきたアリに不思議と襲われることはなかった。	違和感のあるスジグロカバマダラを見つけた。その時には擦れた個体と思ったし、すぐに飛び去られてしまった。しかし、何か気になったので、翌日同じ場所で待っていると再び同じ個体が登場、この撮影が叶った。
表現したかったチョウやガの不思議さ	オスが姿を消してからもメスは一生懸命に生き延び、子孫を残そうしている。その姿が印象的だった。	小さな体のどこに帰巣本能が備わっているのか、とても不思議でした。	蝶・蛾は翅だけでなく複眼や口吻、触角なども種ごとに個性 があり複雑な美しさを持つことを表現しました。		調べてみるとスケカバマダラと呼ばれる変異個体だった。時にこんな不思議な変異が起きるのだなと驚いた。

一般の部

賞	入選
氏名	太田　明男
タイトル	アゲハの吸水行動～放水の瞬間(5枚組写真)
作品	
作品説明	アゲハ蝶達５種類が、吸水している姿を、しかも放水している 瞬間を狙って、我慢強く粘って撮影しました。 （ミヤマカラスアゲハ・アオスジアゲハ・ナミアゲハ・モンキ アゲハ・ナガサキアゲハ）
表現したかった チョウやガの 不思議さ	蝶たちは何のために吸水しているのか？体温を下げるため、栄養補給のため等、諸説ありますが、不思議な行動です。

	一般の部	一般の部	一般の部	一般の部
賞	入選	入選	入選	入選
氏名	長谷川　匠	小田桐　啓太	川田　澄男	立岩　幸雄
タイトル	雪に咲く燻銀の華	スギタニルリシジミの春	手はオシッコだらけ	沖縄の青い空と海を背景に 占有行動中のフタオチョウ♂
作品				
作品説明	残雪に被覆されたブナの樹林. 陽が堕ち、凍える冷気を 切り裂 き翔び交う、高貴な蛾. タニガワモクメキリガは、 鉱石が如く煌めく鱗粉を 纏い、その華を誇示するかの ように奮い立たせ ていた。	早春の里山での スギタニルリシジミ の交尾シーン。	野外観察の途中、私（撮影者） のお腹のポシェトから 利 き手の　右の手のひらに 乗り移ったコチャバネセセリ が、 自分のオシッコを方々に まきちらしながら吸い戻して い ました。左手でデジカメを 操作していても、まったく ものおじせ ず、30分間近く 滞在しました。	ここ数日ぐずついていた天気も ようやく回復、一気に晴れ間が 広がった。太陽の登場を 待っていたかのように あちこちから本種が現れ、 占有行動を始めた。うち1頭が 目の前の手すりにとまり、 私の存在を無視して活発に 活動を始めた。
表現したかった チョウやガの 不思議さ	なぜ厳寒の中を生き、なぜ 活動できるのか. 煌めく鱗粉や 模様はいかにして創造され、 その意味を持つのか。	とても神秘的でした。	吸い戻し行動は、我をも 忘れる？　ようですネ。	一旦占有行動を始めると すぐそばにいる人間のこと など一切気にしなくて 活動する。

	学生の部	学生の部	学生の部
賞	特選	準特選	準特選
氏名	西　雅刀	白井　建	関　理紗
学年	大学院修士課程１年	高等学校３年	中学校１年
タイトル	クリとキマルリ	アサマイチモンジの交尾	どこまでも遠くへ
作品			
作品説明	栗園で撮ったキマダラルリツバメです。背景の青い空と、栗の葉の黄緑色、白い花の中にいるキマダラルリツバメが美しいと思いました。	宮城県北部のアサマイチモンジは白帯が広い個体群と聞いて観察に行ったとき、スイカズラの群落の中にこの交尾個体を発見し撮影したものです。	アサギマダラのマーキングをした時のものです。マーキング後に、私の手から飛び立つところをスマートフォンで自撮りしました。
表現したかったチョウやガの不思議さ	キマダラルリツバメが、栗園の中で白い花の間を飛び回りながら力強く生きている様子。	♀のみならず♂も白帯が広がる面白い地域変異であるということ。	旅するチョウの不思議です。私のマークしたチョウがどこまで飛んでいってくれるかワクワクします。

	学生の部	学生の部	学生の部
賞	入選	入選	入選
氏名	清水　美京	上辻　愛織	仁地　悠人
学年	大学１年	大学院修士課程２年	初等学校６年
タイトル	森の妖精との邂逅	カノコガの羽化	アリに守られた チョウセンアカシジミ
作品			
作品説明	当日、林道上は霧も出ており、 気温も高くなく静寂でした。 そのような中、ひっそりとオオ ミズアオのメスが羽化している ところと偶然出会いました。 オオミズアオの羽化を見るのは 初めてでおもわずシャッターを きりました。	カノコガの羽化直後	この作品は、羽化したてで 羽をのばしているチョウセン アカシジミと、そこにあつまる アリをさつえいしました。
表現したかった チョウやガの 不思議さ	夜間ではなく、昼に羽化して おり、繭が近くになく、 どうして羽化現場までたどり ついたのかが不思議でした。	初めて見たカノコガの羽化は 神秘的で、黒と黄色の体が 緑の中でよく映えていた。	このチョウは幼虫時代にアリに 守ってもらっていましたが、 なぜ成虫の周りにもあつまる のかがぎもんに思いました。